

平成 23 年 11 月 27 日 (日) 第 6 期アレルギー大学 研究実践講座

記念講演・シンポジウム

認定 NPO 法人 アレルギー支援ネットワーク

会場：名古屋工業大学 2号館 1F F1 講義室

午前の部

9：30～10：30 シンポジウム

座長 小川 雄二 名古屋短期大学 教授

「茶のしづく石鹼に含まれる加水分解小麦末に関連した
小麦アレルギーの臨床的特徴とこれまでの研究成果」 9：30～10：00

太田理会 藤田保健衛生大学 皮膚科学講座

「外食における食物アレルギー対応システムの構築」 10：00～10：30

寺倉 里架 名古屋学芸大学 大学院

10：30～12：00 記念講演

座長 小川 雄二 名古屋短期大学 教授

「食物アレルギー診療ガイドライン 2012 解説」

講師 宇理須 厚雄 藤田保健衛生大学医学部教授・坂文種報徳會病院 小児科

平成 23 年 10 月 28 日に食物アレルギー診療ガイドライン 2012 (JPGFA2012) が発刊される予定である。JPGFA2005 が発刊されてから 6 年が経とうとしている。その間、食物アレルギーの診療や社会的対応は大きな進展をした。JPGFA2012 では、当然これらの進展を反映している。本講演では、JPGFA2012 は医師向けではあるが、一般の方にもわかるように、新しく変更された点やポイントを解説する。

13:00~15:00 研究実践報告 (各15分)

座長 伊藤 浩明 あいち小児保健医療総合センター

【内容】

研究実践報告に応募された防災士、企業・学校・園などに勤務する専門職、母親などのアレルギー大学受講生による、アレルギーに対し実際に取り組んでいる内容やその結果など具体的な事例についての発表報告。

15:00~16:30 記念講演

座長 伊藤 浩明 あいち小児保健医療総合センター 内科部長

「食物アレルギー性小腸炎モデルマウスを用いた発症から
寛容に至る機構の解明」

足立（中嶋）はるよ 東京大学大学院農学生命科学研究科 食の安全研究センター

現在、食物アレルギーの治療では、原因食物の除去以外に抗原特異的な経口または舌下免疫による寛容の誘導法が進められている。しかし、原因食物の除去は、患者およびご家族のQOLに大きく影響する。また寛容誘導法は、原因食物が、食べることができるようになることは、患者さんにとって至上の喜びである一方、未解明な点も多く、思わぬ副作用が起こる可能性もある。我々はこれらの誘導法を有効な治療法として確立するためには、炎症から寛容に至る機構の解明が必要と考えた。そこで、食物の摂取のみで腸炎を起こすが、その後の継続投与で寛容状態になるマウスモデルを確立し、このマウスを用いて、発症から寛容の獲得に至る機構の解明を目指している。本モデルは、現開発段階では、細胞性に発症する新生児性の牛乳アレルギーモデルとなると考えているが、マウスは、原因アレルゲンの投与で全身性に寛容を獲得したのちも、腸管免疫系では炎症応答を継続する。本講演ではこの発見に至る研究の一旦を紹介したい。